2022年12月1日　改訂

ビノレルビン療法を受けられる患者さまへ

抗がん剤には、がん細胞の増殖を抑えたり、再発や転移を防いだりする効果があります。がん細胞と同時に正常な細胞にも影響を与え、それらが副作用として現れます。副作用の程度には個人差が大きいです。副作用について正しく理解して、安心して日常生活をおくることが重要です。

[投与スケジュール]

・３週間を１コースとして行います。
・点滴時間は約 30 分です。

薬剤名	目的	点滴時間	１日目	８日目	9-21日目
デキサメタゾン(デキサート) ＋ 生理食塩水50ｍｌ	吐き気を予防します。	15分	○	○	休
ビノレルビン(ロゼウス) ＋ 生理食塩水50ｍｌ	抗がん剤です。	5分	○	○	
生理食塩水50ｍｌ	点滴ルート内を洗い流します。	5分	○	○	

＜点滴中の注意事項＞

・抗がん剤が血管から漏れた場合、痛みと共に皮膚に潰瘍を生じてしまうことがあります。
　点滴部位に痛みや腫れ、赤くなったり、熱く感じるなど少しでも違和感を感じたら、
　すぐにスタッフにお知らせください。
・まれではありますが、点滴中にアレルギー（過敏症）が生じることがあります。
　発疹、かゆみ、息苦しさなど感じた時にはすぐにお知らせください。
・点滴時間や薬剤は変更になることがあります。

[主な副作用について]

起こりやすいもの・特に注意が必要な副作用のみを記載しました。その他の副作用については、化学療法同意書を参考にして下さい。

骨髄抑制：白血球減少・赤血球減少・血小板減少

骨髄は骨の中心にある組織で、白血球・赤血球・血小板などの血液の成分をつくっています。骨髄にある細胞が、がん治療でダメージを受けると、これらの血液成分をつくり出す働きが

正常に機能しなくなります。この副作用のことを骨髄抑制といいます。骨髄抑制の程度を見ながら、抗がん剤を休んだり、量を調整します。

①白血球減少（好中球減少）：感染症

白血球の成分の一つが好中球です。好中球が減ると感染症にかかりやすくなったり、重症化しやすくなります。薬の投与後 1～2 週間で最低値になり、その後 1～2 週間かけて徐々に回復します。感染症予防対策を行い、感染症にかかった場合には早めの治療を開始することが重要です。

【対策・治療】

・マスクの着用、手洗い、うがいの実施、予防接種

・骨髄を刺激し、白血球を上昇させるフィルグラスチム皮下注射・ペグフィルグラスチム（ジーラスタ）皮下注射の投与。抗生剤の投与。

【すぐに病院へ連絡してほしい症状】

・38℃以上の発熱が続く時

・息苦しさ、咳、のどの痛み、排尿時痛があり、ぐったりしている時

②赤血球減少（ヘモグロビン減少）：貧血

赤血球は体中に酸素を運ぶ働きがあります。低下すると、顔色が悪くなり、息切れ、めまいがでることがあります。薬の投与後２週間～１か月以降に出現します。白血球や血小板の減少に比べて緩やかです。

【対策・治療】

・激しい動きを避け、ゆっくりと動く

・輸血

③血小板減少：出血

血小板は血液を固まらせる成分です。低下すると、鼻血、歯肉出血、あざ等の出現や、採血後に血が止まりにくいなどの症状が現れることがあります。血液をサラサラにするお薬を服用中の方は特に注意が必要です。薬の投与後１週間後ぐらいから下がり初め、２～３週間で最低値になった後、３～４週間かけて回復します。

【対策・治療】

・やさしく鼻をかむ・やさしく歯を磨く、電気カミソリの使用、採血後の十分な止血

・輸血

悪心・嘔吐、食欲不振

味や嗅覚の変化、不安やストレスによる心理的な変化、便秘など、薬の直接作用だけでなく、さまざまな要因が関連しています。症状の程度には個人差があります。悪心は投与２日目から５日間ほど続く場合もあります。吐き気止めの薬で症状を軽減しやすくなっていますので、症状が強い場合や不安がある場合はご相談下さい。

【対策】
・吐き気止めによる予防・治療
　頓服の吐き気止めは、我慢しないで早めに服用しましょう。
・食事制限がない場合、好きなものを少しずつ食べてください。水分をきちんととるようにしましょう。
【病院へ連絡してほしい症状】
・吐き気で水分がとれない状態

下痢・便秘

抗がん剤や吐き気止めの影響でお通じに変化が起こることがあります。
【対策】
・下痢止め・便秘薬の内服
【病院へ連絡してほしい症状】
・1日あたりの排便回数がいつもより4回以上の増加が続く時
・トイレから離れられないような下痢症状が続く時
・下痢止めを服用しても症状が軽減しない時

口内炎

抗がん剤や放射線が口の粘膜に作用して、口内炎ができることがあります。抗がん剤の場合は早くて2-4日頃から、放射線の場合は治療開始2-3週間ごろに生じることがあります。
【予防】
・うがいや歯磨きで口の中を清潔に保つ
・口が乾燥しないように飲水等を行う
・歯科でのクリーニングの継続
【治療】
・口内炎の塗り薬や貼り薬の使用

倦怠感

治療後、体のだるさや疲れやすさを感じやすくなります。
【対策】
休養を十分にとり、回復したら活動するなどメリハリのつけた生活にしましょう。特に初回投与時は、倦怠感の程度が分からないので、仕事や家事を休むことができるような環境を整えましょう。

脱毛

抗がん剤によって細胞分裂が活発な毛根の細胞もダメージを受けるので脱毛が起こります。髪の毛以外の体毛（眉毛、まつ毛、陰毛など）にも影響が出ることがあります。多くの場合、投与後2～3週間後頃に頭髪に症状が出現し、治療終了後3～6ヶ月後には再び髪が生えてきます。治療前と毛質の変化を感じることもありますが、1-2年で元の髪質に戻ってき

ます。脱毛時に頭皮に刺激を感じることがあります。対策等を記載した専用の用紙があるので、ご希望の方はスタッフにお伝え下さい。

【対策】

・ウィッグ、帽子の着用

・頭皮の刺激時：軟膏薬の使用

血管痛・静脈炎

薬が血管を刺激するため、投与している腕に痛み、腫れ、ピリピリ感がでることがあります。まれに数日後に出現することがあります。

間質性肺炎

まれに、抗がん剤の影響で肺炎を起こすことがあります。喫煙は発生リスクを上げるので、必ず禁煙して下さい。重症の場合は、生命に関わったり、回復しても継続的な酸素投与が必要な場合もあります。

【病院へ連絡してほしい症状】

・空咳（痰の出ない咳）

・息切れ、呼吸困難感（今まで歩けた距離が歩けない、上れた坂や階段が上れない）

＜治療中の注意事項＞

・抗がん剤は尿や便にしばらく（2-7日）の間残りますが、大量の付着でなければ、特別な対応は不要です。尿の飛散を防ぐために男性は腰かけて排尿して下さい。

・当院以外の病院や歯科を受診の際は、必ず抗がん剤を投与中であることを伝えて下さい。

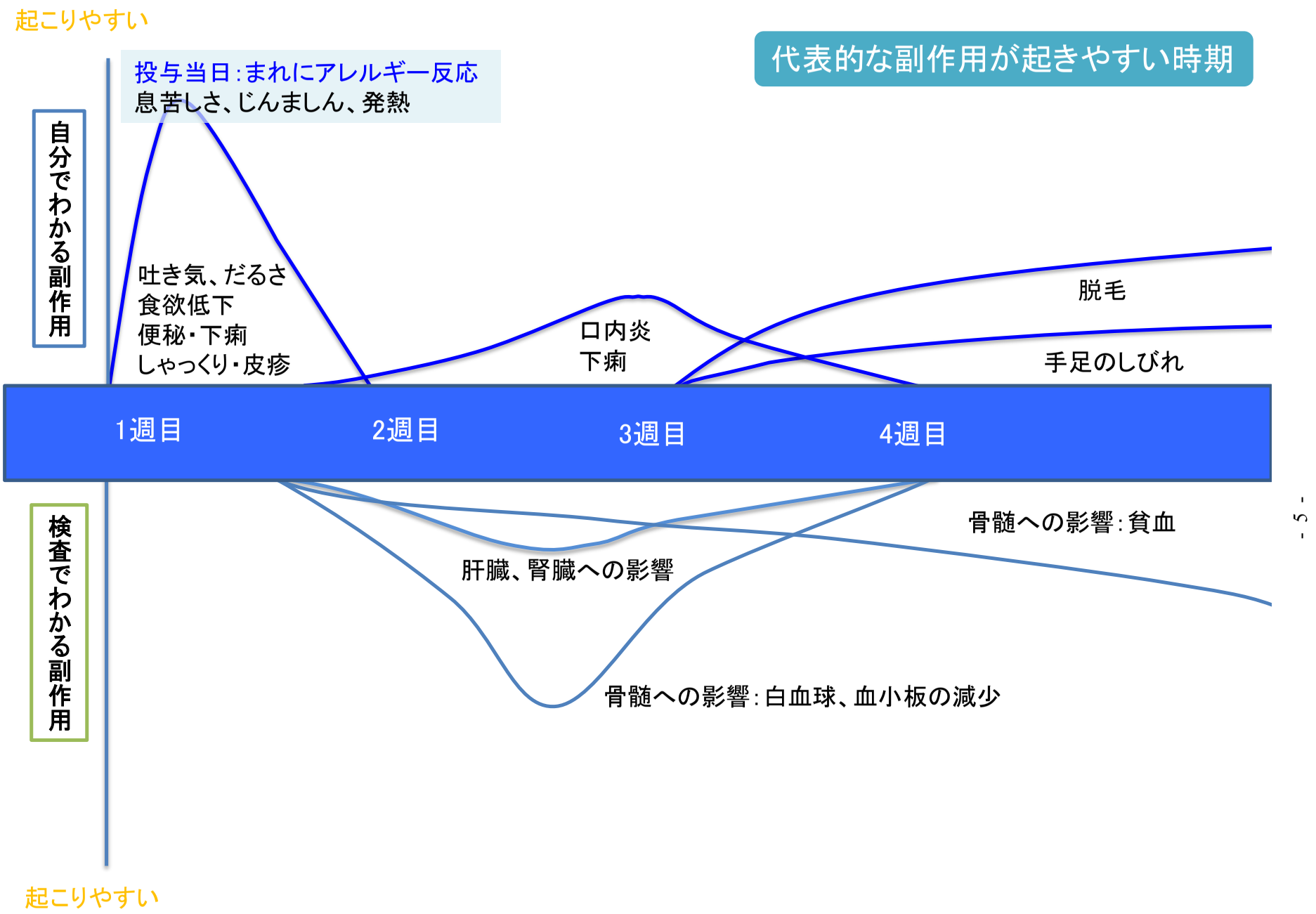
・使い合わせに注意が必要なお薬や健康食品があります。新しい薬や健康食品を使用する時は、必ず薬剤師に確認をして下さい。

・緊急時は代表番号に電話をし、診療科とお名前をお知らせ下さい。

・抗がん剤治療にかかる費用に「高額療養費制度」が使用できる場合があります。詳しくは、ご加入の保健組合等にお問い合わせ下さい。また、治療費に関することも含む、がんに関する様々な相談をがん相談支援センター（1階5番「患者相談窓口」）で対応しています。

☎ 045-576-3000（代表）

済生会横浜市東部病院　薬剤部作成


起こりやすい
代表的な副作用が起きやすい時期
投与当日：まれにアレルギー反応
息苦しさ、じんましん、発熱
自分でわかる副作用
吐き気、だるさ
食欲低下
便秘・下痢
しゃっくり・皮疹
口内炎
下痢
脱毛
手足のしびれ
1週目
2週目
3週目
4週目
検査でわかる副作用
骨髄への影響：貧血
肝臓、腎臓への影響
骨髄への影響：白血球、血小板の減少
起こりやすい